

【課題番号】 4-1702

【研究課題名】

希少植物の自生地復元に向けた問題解決と基盤整備

研究の全体概要

本研究では、希少植物の保全を実践し、域外保全栽培個体の植え戻しや個体群復元を行っていく上で問題になってきた3課題：① 自生地に種子の取りまきや域外保全株を植え戻しても定着しない問題、② 域外保全株の野生復帰における遺伝的多様性の配慮、③ 保全を担い、実践する市民、行政、研究者間で生じる社会的問題、の3つについて解決策を見だし、それをいま緊急性が高い希少植物の保全をモデルケースとして実践するとともに、方法論を確立しプロトコル化することで、多くの希少植物の保全で活用できるようにする。そのために次の4サブテーマを実践する。

サブテーマ①：遺伝的多様性解析と至適空間配置を考慮した域外保全集団形成法の開発

サブテーマ②：マイクロ生育環境のリモートモニタリングシステム開発と生育適地解析

サブテーマ③：希少植物の自生地復元のための土壌・共生生物相の解析

サブテーマ④：希少植物の保全活動における社会的・倫理的課題解決のための科学技術社会論的検討

①は「域外保全集団の形成」を行うが、野生復帰を念頭に置いて元自生集団に近い場所での形成を行う。サブテーマ②、③、④は常に①と同時に共同して研究を実施することによって、総合的に保全の諸問題を解決へ導く。研究を進める過程で、保全を実践するモデルケースとして小笠原諸島に生育するムニンノボタン、アサヒエビネ、タイヨウフウトウカズラ、南西諸島の奄美大島のリュウキュウアセビ、ウケユリ、アマミデンダを対象として保全活動を実践しつつ、様々な希少植物の個体群復元に活用できるようにする。

各サブテーマは研究対象を共有して常に知見を共有しながら多面的な知見を収集し、域外保全集団を野生復帰させるのに必要な情報の取得法を確立する。そして本研究のモデルケースとする対象種だけでなく、あらゆる希少種の保全活動に活用可能なプロトコルを確立する。

4-1702 希少植物の自生地復元に向けた問題解決と基盤整備 (代表機関: 京都大学)

